

第 304 回くらしの植物苑観察会 令和6年7月27日（土）

「くらしの植物苑の地衣類」

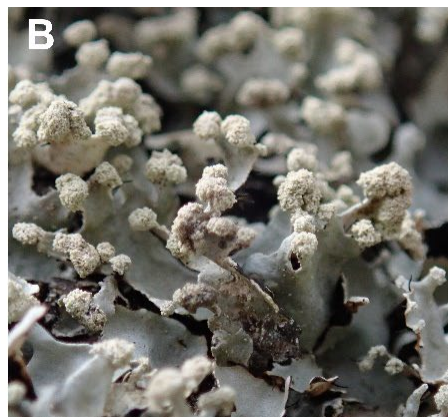
坂田 歩美（千葉県立中央博物館 研究課 研究員）

くらしの植物苑は千葉県北部の下総台地中央部に位置し、旧佐倉城の一郭にあります。苑内には様々な地衣類が見られます。これらは千葉県の街中から郊外にかけてよく見ることができる種類で、ご自宅からくらしの植物苑までの道中で、すでに目にされたかもしれません。地衣類を目撃しても、多くの方は種類まではわかりません。ところが、くらしの植物苑に生育する地衣類の中には形や色の違いだけで種類が区別できる地衣類もあります。種類を区別するポイントさえ押さえればあなたも地衣類の名前がわかるようになります。同定するのが比較的簡単なウメノキゴケの仲間と同定するのが困難な広義ムカデゴケ科を観察しながら、種類を区別する方法を伝授します。肉眼でも分かるような大まかな形と栄養繁殖器官（裂芽や粉芽、パステュール）の有無が種類を区別するポイントとなります。一方、昨年の観察会で種類を同定できなかったアオキノリ的一种については、図鑑を使って同定してみます。アオキノリ的一种を同定する過程から図鑑の使い方も学びます。併せて、隣接する佐倉城址公園に生育する地衣類との違いについて解説します。

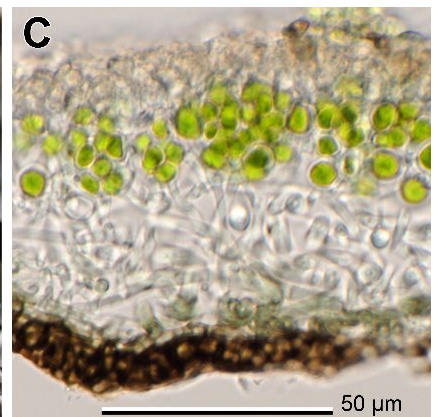
後半ではスライドを使って地衣類の正体に迫ります。名前にコケとつく種類が多いため、狭い意味のコケの^{せんたいいらい}地衣類はよく間違われますが、蘚苔類は葉緑体を持っていることから、維管束植物に近い仲間です。一方、地衣類の体の中を覗いてみると、菌類と藻類が見られます。地衣類は菌類と藻類が共生関係を結んだ複合生物です。一つの生物に一つの学名（名前）がつけられていますが、複合生物である地衣類の学名は菌類と藻類のどちらの学名で呼ばれているのでしょうか。植物や菌類の学名をつけるための国際的なルールである国際藻類・菌類・植物命名規約によると、地衣類の学名は菌類につけられているとみなします。つまり、地衣類は菌類であり、これに藻類が共生しているのだと解釈します。



A ヒラムシゴケ
(広義ムカデゴケ科)



B マツゲゴケ
(ウメノキゴケの仲間)



C マツゲゴケの地衣体断面

.....

次回予告 第 305 回くらしの植物苑観察会 令和6年8月24日（土）

「禹長春の幻の朝顔資料」

仁田坂 英二氏（九州大学大学院理学研究院 准教授）13：30～15：30

国立歴史民俗博物館 講堂 定員 240 名